



瑞穂市 都市計画 マスタープラン

地域別構想編素案

平成 年 月

瑞 穂 市

目次

<地域別構想編>

序章 地域区分	1
序-1 地域区分の方針	1
第1章 生津地域のまちづくり構想	3
1-1 地域づくりの前提条件	3
1-2 地域づくりの方針	5
第2章 本田地域のまちづくり構想	9
2-1 地域づくりの前提条件	9
2-2 地域づくりの方針	11
第3章 穂積地域のまちづくり構想	15
3-1 地域づくりの前提条件	15
3-2 地域づくりの方針	17
第4章 牛牧地域のまちづくり構想	21
4-1 地域づくりの前提条件	21
4-2 地域づくりの方針	23
第5章 南地域のまちづくり構想	27
5-1 地域づくりの前提条件	27
5-2 地域づくりの方針	29
第6章 中地域のまちづくり構想	33
6-1 地域づくりの前提条件	33
6-2 地域づくりの方針	35
第7章 西地域のまちづくり構想	39
7-1 地域づくりの前提条件	39
7-2 地域づくりの方針	41

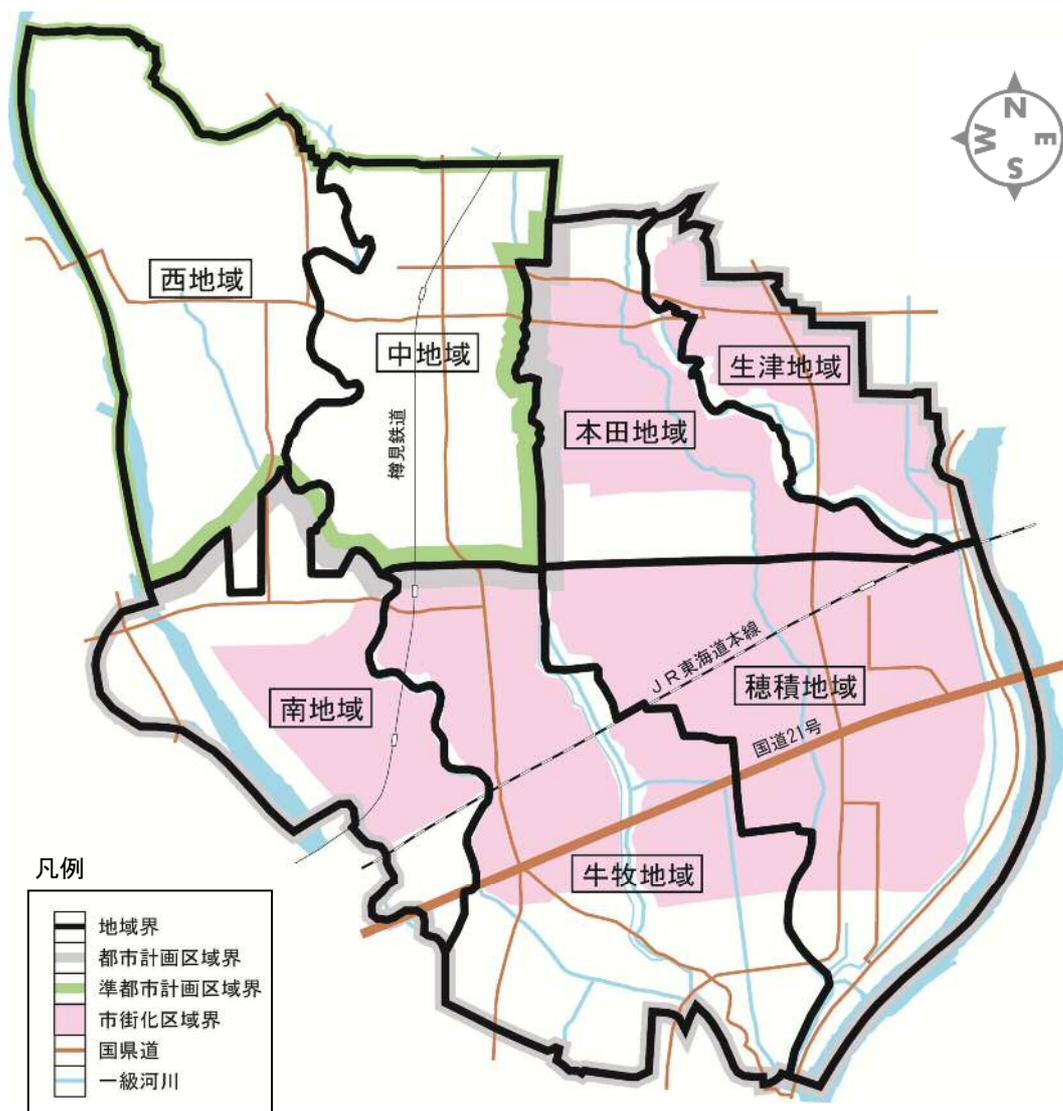
序章 地域区分



序-1 地域区分の方針

- ・地域別構想編では、全体構想編の内容や、地域の特性を考慮しながら、各地域のまちづくりの方向性を定めます。
- ・地域区分にあたっては、改定前の7つの小学校区による区分を継承します。この7つの地域区分は、自然的、社会的、経済的及び文化的諸条件、関連計画や市民の日常生活等においても、基本となっていることを勘案し、設定しています。

図 地域区分図



第1章 生津地域のまちづくり構想



1-1 地域づくりの前提条件

1. 地域の特徴

〈地域の概況〉

- ・市北東部に位置し、馬場及び生津地区が該当します。
- ・長良川と糸貫川に挟まれた位置にあり、東部には天王川が流れています。
- ・鉄道はなく、主要な道路としては、主要地方道北方多度線、主要地方道岐阜県南大野線が通っています。
- ・バスは、岐阜バス（美江寺・穂積線、大野・穂積線）、みずほバス（本田・唐栗線）が通っています。

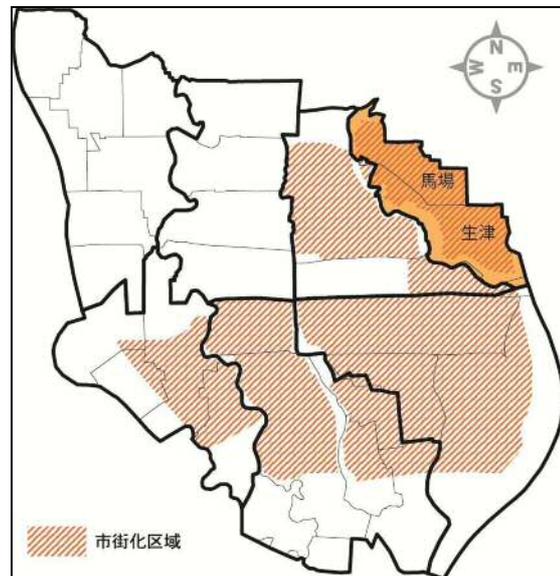
〈面積及び人口〉

- ・平成22年の人口は、4,925人（市全体の9.5%）で、平成17年～22年の人口増減は、53人の減（1.1%減少）と、概ね横ばいです。
- ・平成26年の世帯数は、2,015世帯（市全体の10.7%）で、世帯人員は2.76人/世帯と、市平均（2.83人/世帯）より低くなっています。
- ・面積は約190haと最も小さい地域ですが、全域が都市計画区域に指定され、市街化区域の占める割合が、約75%と高くなっています。

〈土地利用等の現況〉

- ・ほぼ全域で土地区画整理事業が実施されたことから、他地域に比べ市街化が進展しており、都市基盤の整備水準も高くなっています。
- ・主要地方道北方多度線や主要地方道岐阜県南大野線等の幹線道路沿道には、商業施設、工場、運輸倉庫施設等が立ち並び、天王川周辺にも工場が立地するなど、産業機能の集積が進んでいます。
- ・地域の南東では、住宅建設が進み、住商工の土地利用が混在しています。

図 地域の位置



〈都市施設等の現況〉

- 都市計画道路は、3路線全ての整備が完了しています。また、都市計画公園は、馬場公園など9箇所全ての整備が完了しています。
- 下水道は未整備で、公共下水道による整備が計画されています。
- 主な公共施設としては、生津小学校、生津スポーツ広場、馬場公園等が位置しています。
- 面的整備が広範囲で実施され、幹線道路沿道は準防火地域に指定されています。
- 多くの河川が流れており、良好な自然環境・親水環境を有しています。

〈市民アンケート調査結果〉（瑞穂市第2次総合計画より）

- 定住意向は84.4%です。
- 定住したい理由では、「買い物や外食が便利」という意見が多くなっています。
- 定住したくない理由では、「まちに愛着がない」という意見が多くなっています。
- 今後の重点施策としては、「医療・福祉・介護の充実」、「道路・公園・下水道などの公共インフラ整備」や「機能的な都市空間の創出（駅周辺のまちづくり）」などを重視する意見が多くなっています。
- 現状の土地利用については、「働く場や地域経済を支える工場・事業所が少ない」、「子育て・医療・福祉など、暮らしに欠かせない生活利便施設が少ない」などの意見が多くなっています。
- 将来の土地利用については、「道路、公園、上下水道などの整備を進め、良好な住環境を形成する」、「空地や未利用地などの有効利用を促進する」などの意見が多くなっています。

2. 地域づくりの主要課題

- 低未利用地や幹線道路沿道等の計画的な活用による商工業系土地利用の一層の充実
- 馬場交差点周辺における生活に身近な商業・サービス施設、医療・福祉施設等の誘導・集積
- 住宅主体の良好な市街地環境の維持・保全
- 住工混在地における住環境と操業環境の調和
- 公共下水道の着実な推進
- 都市施設（道路、公園・緑地）の適正な維持・管理、防災機能の充実
- 生活道路や公共施設、学校等の周辺における歩行空間の整備など、安全な交通環境の形成
- 河川の自然・親水環境の保全・活用（公園、散策路等）、治水対策の推進
- 公共交通（バス）の充実
- 河渡宿（岐阜市）等、中山道の往時をしのばせる集落環境（街並み）と連携した

まちづくり

- 地域の個性・魅力を形成する地域資源の発掘・活用
- 巨大地震や集中豪雨による甚大な被害に備えた、減災を考慮した地域づくり（災害に強い市街地整備、都市基盤の防災機能強化等）
- 地域の自然環境、歴史・文化等と調和し、定住・交流を促す魅力的な都市景観の形成
- 地域コミュニティの形成（世代間交流）、地域活動の活性化（防災活動、祭り等）、交流の場の形成

3. 全体構想での代表的な位置付け

- 地域生活拠点：馬場交差点周辺地区
- 交流拠点（健康づくり、市民交流）：馬場公園、生津スポーツ広場
- 交流拠点（歴史・文化交流）：河渡宿（岐阜市）
- 産業集積軸：主要地方道北方多度線、主要地方道岐阜栄南大野線

1-2 地域づくりの方針

充実した都市基盤を活かした産業と住宅地が共生した 利便性の高い地域づくり

- ◆馬場交差点周辺において、生活に身近な商業・サービス施設、医療・福祉施設等を集積し、利便性の高い地域生活拠点の形成を図ります。
- ◆幹線道路沿道において、交通利便性の高さを活かした産業（商業、工業、流通・業務等）の積極的な誘導により、産業機能のより一層の強化を図ります。
- ◆都市基盤の整備、長良川、糸貫川等の自然環境の保全・活用や市街地の緑化を推進し、良好な住環境の形成を図ります。

この地域づくりの方針を実現するための「地域構造」及び「重点施策」を整理しました。

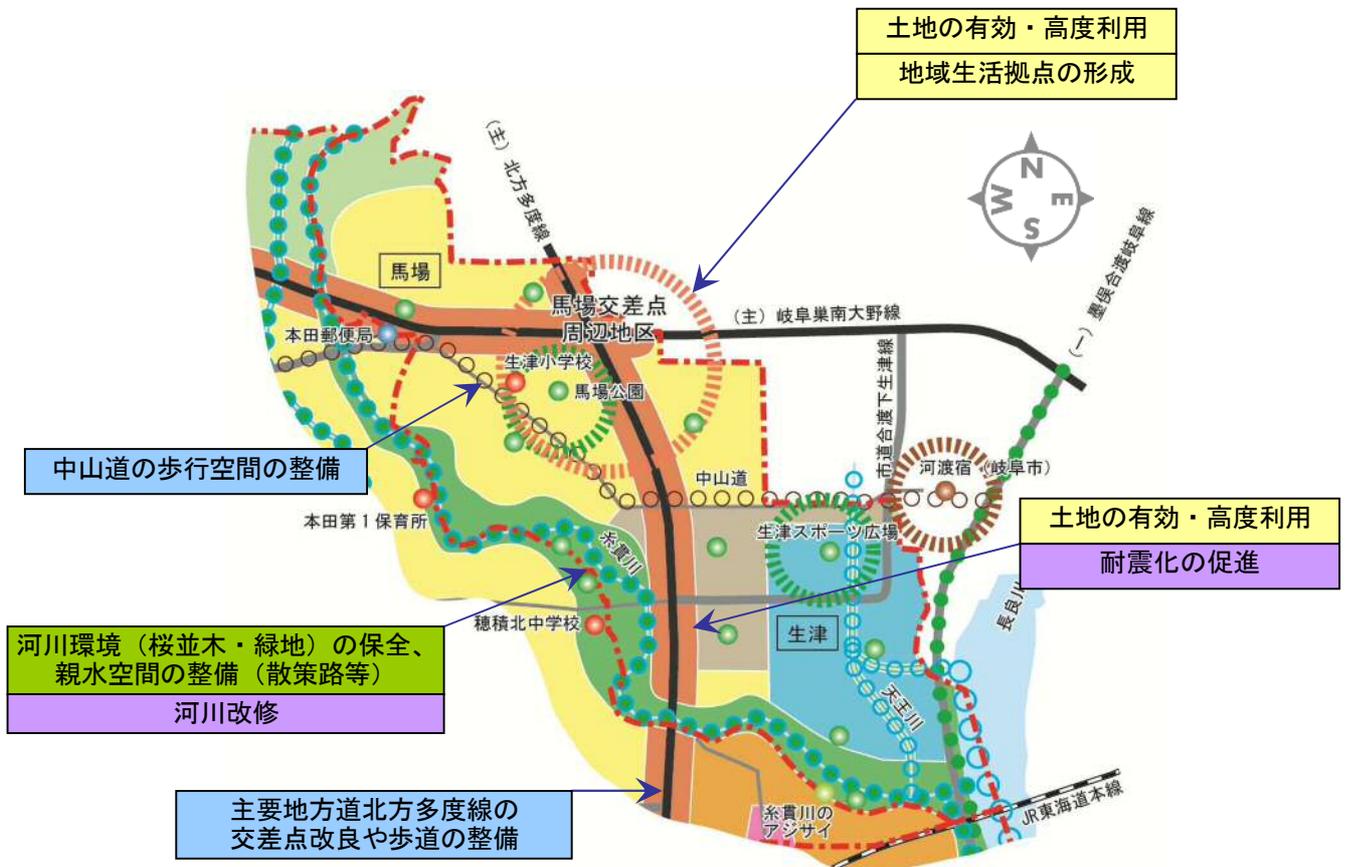
〈地域構造〉

分野		内容	
土地利用	住宅地（周辺・郊外居住）	地域中部・北部	
	住工共存地	地域南部	
	工業地	地域南東部	
	沿道複合地	(主)北方多度線沿い、(主)岐阜県南大野線沿い	
	農地・集落地	地域北部	
	自然環境地	糸貫川	
道路・交通	幹線道路	(主)北方多度線 (主)岐阜県南大野線	
	公共交通	バス	岐阜バス(美江寺・穂積線、大野・穂積線) みずほバス(本田・唐栗線)
拠点	都市拠点レベル	地域生活拠点	馬場交差点周辺
		健康づくり拠点・市民交流拠点	馬場公園、生津スポーツ広場
		歴史・文化交流拠点	河渡宿（岐阜市）
	地域の暮らしに密着した拠点	身近な防災拠点	生津小学校等
		身近な健康・交流拠点	馬場公園等の都市公園
	身近な自然・交流拠点	糸貫川のアジサイ	

〈重点施策〉

分野	施策名	内容	実施主体
道路・交通づくり	主要地方道北方多度線の交差点改良や歩道の整備	・幹線道路へのアクセス性向上や安全な歩行空間を形成するため、整備を促進します。	【県】
	中山道の歩行空間の整備	・中山道における歩道等の整備、誘導サインの設置等により、観光・交流に寄与する歩行者ネットワークの形成を図ります。	【地域住民、事業者、県、市】
水・緑づくり	糸貫川等の河川環境（桜並木・緑地）の保全、親水空間の整備（散策路等）	・水と緑のネットワークの主軸として、自然とのふれあいや環境学習の場として活用できるよう、河川改修とあわせて親水空間を整備するとともに、河川環境の保全を図ります。	【地域住民、市】
市街地づくり	土地の有効・高度利用（馬場交差点周辺、幹線道路沿道、工業地、住工共存地）	・土地の有効・高度利用による産業集積と良好な住環境の保全との両立を図るため、地区計画制度等の活用による、きめ細やかな土地利用の規制・誘導を図ります。	【地域住民、事業者、市】
	地域生活拠点の形成（馬場交差点周辺）	・生活利便施設の集積、交通結節機能の向上等、地域住民の日常生活の利便性を向上させる拠点の形成を図ります。	【地域住民、事業者、市】
	市街地環境の維持・保全	・既成市街地の土地利用状況に見合った用途地域等の見直しを行い、適正な土地利用の規制・誘導を図ります。	【市】
都市環境づくり（防災、景観、環境）	糸貫川等の河川改修	・大雨による洪水被害を軽減するため、河川改修を促進します。	【県】
	市街地防災性の向上（緊急輸送道路沿道等）	・被災時に防災拠点間を連絡する緊急輸送道路沿道の耐震化や木造住宅密集地の耐震化を促進し、市街地の防災性向上を図ります。	【地域住民、市】

図 地域構造及び重点施策図（生津地域）



<地域全般に関する施策>

安全な歩行空間の整備 (全体構想編 P36 参照)
公共交通の充実 (全体構想編 P37 参照)
身近な緑地の保全、公共施設や民有地の緑化 (全体構想編 P40・41 参照)
公共下水道の整備 (全体構想編 P41 参照)
橋梁の耐震化 (全体構想編 P50 参照)
建築物の耐震化・不燃化 (全体構想編 P50 参照)
景観計画の策定 (全体構想編 P51・52 参照)

凡例

住宅地 (街なか居住)	地域生活拠点	幹線道路
住宅地 (周辺・郊外居住)	歴史・文化交流拠点	補助幹線道路
商業地	健康づくり拠点・市民交流拠点	その他の主要な生活道路
住工共存地	水と緑のネットワークの主軸	身近な防災拠点
工業地	歩行者ネットワーク (歴史街道) の主軸	身近な健康・交流拠点
沿道複合地	歩行者ネットワーク (沿川等) の主軸	身近な自然・交流拠点
農地・集落地		その他の施設
自然環境地		
河川		

第2章 本田地域のまちづくり構想



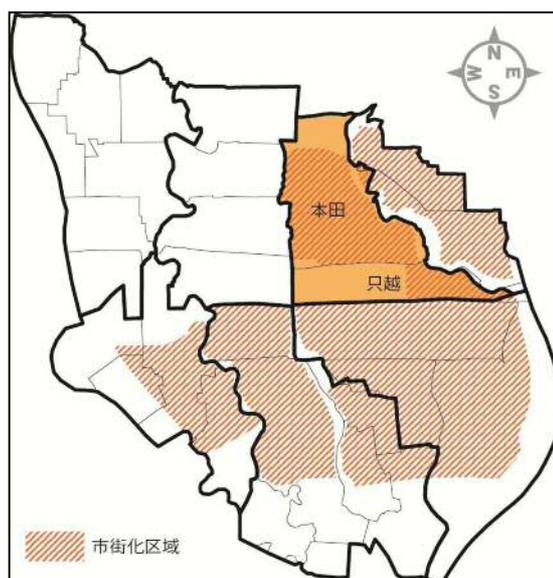
2-1 地域づくりの前提条件

1. 地域の特徴

〈地域の概況〉

- ・市北東部に位置し、本田及び只越地区が該当します。
- ・糸貫川と五六川に挟まれた位置にあり、東部には中川が流れています。
- ・鉄道は通っていませんが、只越地区はJR穂積駅に近接しています。
- ・主要な道路としては、主要地方道北方多度線、主要地方道岐阜県南大野線、市道本田別府線が通っています。
- ・バスは、岐阜バス（美江寺・穂積線、大野・穂積線）、みずほバス（本田・唐栗線、）が通っています。

図 地域の位置



〈面積及び人口〉

- ・平成22年の人口は、7,974人（市全体の15.3%）で、平成17年～22年の人口増減は、376人の増（4.9%増加）と、市内の中でも人口増加が著しい地域です。
- ・平成26年の世帯数は、2,995世帯（市全体の16.0%）で、世帯人員は2.84人/世帯と、市平均（2.83人/世帯）と同程度です。
- ・面積は約304haで、全域が都市計画区域に指定され、市街化区域が約64%を占めています。

〈土地利用等の現況〉

- ・北部と南部は、田園地帯が広がるなど自然環境が豊かで、近年は人口流入が著しく、点状的な住宅建設が進んでいます。
- ・市道本田別府線沿道に小規模な商業施設、各所に大小さまざまな規模の工場が点在しています。他地域に比べ、商工業施設は少ない状況です。

- ・南東部のＪＲ穂積駅に近い地域には住宅地が形成されていますが、駐車場などの低未利用地も多い状況です。

〈都市施設等の現況〉

- ・都市計画道路は、３路線全ての整備が完了しています。都市計画公園はなく、せせらぎ公園のほか、小規模な公園がいくつか整備されています。
- ・下水道は未整備で、公共下水道による整備が計画されています。
- ・主な公共施設としては、本田小学校、穂積北中学校、本田コミュニティセンター等が位置しています。
- ・面的整備は、本田団地が整備されています。
- ・ＪＲ穂積駅北側の市街地は、狭あい道路や木造住宅が密集しており、災害の危険度が高くなっています。また、ＪＲ穂積駅周辺及び幹線道路沿道は準防火地域に指定されています。
- ・多くの河川が流れ、良好な自然環境・親水環境を有しています。

〈市民アンケート調査結果〉（瑞穂市第２次総合計画より）

- ・定住意向は 80.2%です。
- ・定住したい理由では、「交通の便が良い」という意見が多くなっています。
- ・定住したくない理由でも、「交通の便が良くない」という意見が多くなっていますが、市平均より低くなっています。その他の理由としては、「災害や犯罪が起る危険性が高い」が多くなっています。
- ・今後の重点施策としては、「医療・福祉・介護の充実」、「道路・公園・下水道などの公共インフラ整備」などを重視する意見が多くなっています。

2. 地域づくりの主要課題

- ・ＪＲ穂積駅周辺における都市拠点にふさわしいまちづくりの推進
（都市機能の集積、土地の高度利用、交通結節点としての機能向上等）
- ・低未利用地の計画的な活用（土地区画整理事業等）による住宅主体の良好な市街地環境の形成
- ・無秩序な市街地の拡大の抑制と多面的機能（食料生産・防災・景観形成）を考慮した農地の計画的保全
- ・幹線道路沿道などにおける生活に身近な商業・サービス施設、医療・福祉施設等の誘導・集積
- ・都市施設（道路、公園・緑地、公共下水道等）の整備推進、防災機能の充実
- ・生活道路や公共施設、学校等の周辺における歩行空間の整備等、安全な交通環境の形成
- ・河川の自然・親水環境の保全・活用（公園、散策路等）、治水対策の推進
- ・公共交通（バス）の充実

- 本田延命地藏など、中山道の往時をしのばせる集落環境（街並み）の保全・活用
- 田園風景の保全・活用
- 巨大地震や集中豪雨による甚大な被害に備えた、減災を考慮した地域づくり（災害に強い市街地整備、都市基盤の防災機能強化等）
- 地域の自然環境、歴史・文化等と調和し、定住・交流を促す魅力的な都市景観の形成
- 地域コミュニティの形成（世代間交流）、地域活動の活性化（防災活動、祭り等）、交流の場の形成

3. 全体構想での代表的な位置付け

- 都市拠点：JR穂積駅周辺地区
- 交流拠点（健康づくり、市民交流）：せせらぎ公園
- 産業集積軸：主要地方道北方多度線、主要地方道岐阜県南大野線

2-2 地域づくりの方針

ゆとりある街並みの住宅地と歴史・自然が調和した 新たな定住の場となる地域づくり

- ◆ 多面的機能を有する農地や河川等の自然環境に配慮した、低未利用地の計画的な活用により、良好な都市基盤を備えたゆとりある街並みの住宅地の形成を図ります。
- ◆ JR穂積駅周辺、主要地方道岐阜県南大野線などの幹線道路沿道における商業・サービス施設、医療・福祉施設等の集積により、人口増加に対応した生活利便性の向上を図ります。
- ◆ 五六川、糸貫川等の河川、中山道の往時をしのばせる街並みなどを活用し、地域の魅力向上と活性化を図ります。

この地域づくりの方針を実現するための「地域構造」及び「重点施策」を整理しました。

〈地域構造〉

分野		内容		
土地利用	住宅地（街なか居住）	地域南東部		
	住宅地（周辺・郊外居住）	地域中部		
	工業地	地域北西部		
	沿道複合地	(主)北方多度線沿い、(主)岐阜県南大野線沿い		
	農地・集落地	地域北部・南西部		
	自然環境地	糸貫川		
道路・交通	幹線道路	(主)北方多度線 (主)岐阜県南大野線		
	公共交通	バス	岐阜バス(美江寺・穂積線、大野・穂積線) みずほバス(本田・唐栗線)	
拠点	都市拠点レベル	都市拠点	JR 穂積駅周辺	
		健康づくり拠点・市民交流拠点	せせらぎ公園	
	地域の暮らしに密着した拠点	身近な防災拠点	本田コミュニティセンター等	
		身近な健康・交流拠点	せせらぎ公園等の都市公園	
		身近な歴史・文化拠点	本田延命地蔵等	
		身近な自然・交流拠点	本田農園	

〈重点施策〉

分野	施策名	内容	実施主体
道路・交通づくり	中山道の歩行空間の整備	・中山道における歩道・休憩施設等の整備、誘導サインの設置等により、観光・交流に寄与する歩行者ネットワークの形成を図ります。	【地域住民、事業者、県、市】
	JR 穂積駅周辺へのアクセス性の強化	・JR 穂積駅周辺の賑わい創出や交流拡大を図るため、アクセス性向上、安全な歩行者空間を確保します。	【事業者、市】
水・緑づくり	糸貫川、五六川、中川等の河川環境（桜並木・緑地）の保全、親水空間の整備（散策路等）	・水と緑のネットワークの主軸として、自然とのふれあいや環境学習の場として活用できるよう、河川改修とあわせて親水空間を整備するとともに、河川環境の保全を図ります。	【地域住民、市】
	農地の保全（市街化調整区域）	・農地の持つ多面的機能（食料生産・防災・景観等）を考慮し、まとまりのある農地を保全します。	【地域住民、市】
市街地づくり	市街地の防災性の向上（JR 穂積駅周辺等）	・地区計画制度等の活用により、狭あい道路の解消、オープンスペースの確保等、市街地の防災性向上を図ります。	【地域住民、市】
	計画的な市街地整備（土地区画整理事業等）	・まとまった低未利用地の計画的な活用により、都市基盤（道路・公園等）が整備された、良好な住宅地の形成を図ります。	【地域住民、市】
	都市拠点の形成（JR 穂積駅周辺）	・地域住民、事業者、行政の連携による具体的計画のもと、まちの顔としてふさわしい都市機能（商業、交流、医療・福祉、中高層住宅等）の集積、都市空間・都市景観の形成、交通結節点機能の向上等を図ります。	【地域住民、事業者、市】
都市環境づくり（防災、景観、環境）	糸貫川、五六川、中川等の河川改修	・大雨による洪水被害を軽減するため、河川改修を促進します。	【県】
	市街地防災性の向上（緊急輸送道路沿道等）	・被災時に防災拠点間を連絡する緊急輸送道路沿道の耐震化や木造住宅密集地の耐震化を促進し、市街地の防災性向上を図ります。	【地域住民、市】

図 地域構造及び重点施策図（本田地域）



＜地域全般に関する施策＞

安全な歩行空間の整備 (全体構想編 P36 参照)
公共交通の充実 (全体構想編 P37 参照)
公園の整備 (全体構想編 P40 参照)
公共下水道の整備 (全体構想編 P41 参照)
橋梁の耐震化 (全体構想編 P50 参照)
建築物の耐震化・不燃化 (全体構想編 P50 参照)
景観計画の策定 (全体構想編 P51・52 参照)

凡例

住宅地 (街なか居住)	都市拠点	幹線道路
住宅地 (周辺・郊外居住)	健康づくり拠点・市民交流拠点	補助幹線道路
商業地	水と緑のネットワークの主軸	その他の主要な生活道路
住工共存地	歩行者ネットワーク (歴史街道) の主軸	身近な防災拠点
工業地	歩行者ネットワーク (沿川等) の主軸	身近な健康・交流拠点
沿道複合地		身近な歴史・文化拠点
農地・集落地		身近な自然・交流拠点
自然環境地		その他の施設
河川		

第3章 穂積地域のまちづくり構想



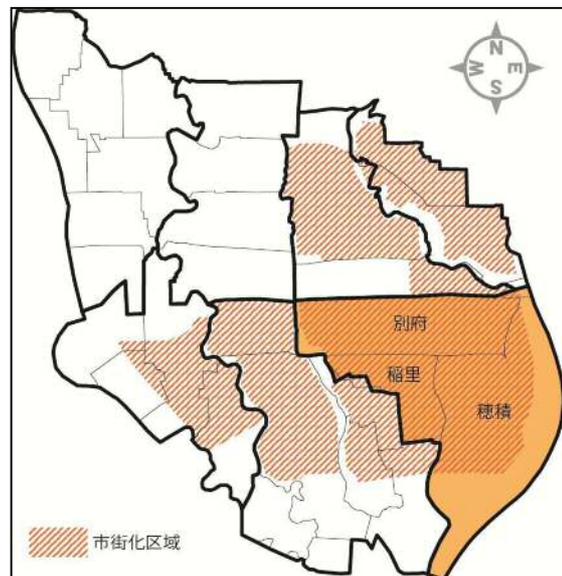
3-1 地域づくりの前提条件

1. 地域の特徴

〈地域の概況〉

- ・市東部に位置し、別府、稲里及び穂積地区が該当します。
- ・長良川と五六川に挟まれた位置にあり、中央に中川が流れています。
- ・北部にJR東海道本線が通っており、JR穂積駅が位置しています。
- ・主要な道路としては、国道21号、主要地方道北方多度線が通っており、交通の便が良い地域です。また、岐阜南部横断ハイウェイの整備構想があります。
- ・バスは、岐阜バス（大野・穂積線）、みずほバス（本田・唐栗線、十九条・古橋線、牛牧・穂積線）が通っています。

図 地域の位置



〈面積及び人口〉

- ・平成22年の人口は、14,141人（市全体の27.2%）で、最も人口が多い地域ですが、平成17年～22年の人口増減は、18人の増（0.5%増加）と、概ね横ばいです。
- ・平成26年の世帯数は、4,996世帯（市全体の26.6%）で、市内で最も世帯数が多い地域ですが、世帯人員は2.73人/世帯と、市平均（2.83人/世帯）より低くなっています。
- ・面積は約588haと市内で最も大きく、全域が都市計画区域に指定され、市街化区域の占める割合も、約70%と高くなっています。

〈土地利用等の現況〉

- ・JR穂積駅周辺は市街化が進んでおり、住宅や小規模な商業施設が集積していますが、駐車場などの低未利用地も多く、商業用地の減少が目立っています。
- ・国道21号や主要地方道北方多度線等の幹線道路沿道には、大規模商業施設が建

ち並び、工場跡地には新たな複合型商業施設が立地するなど、沿道利用が進んでいます。また、沿道開発に伴い、周辺では、住宅建設が進んでいます。

- 西部の国道21号やJRの沿線には、大小さまざまな規模の工場が集積しており、周辺では住工が混在した土地利用がみられます。
- 南部は、優良農地が広がるなど、豊かな自然環境が残っています。

〈都市施設等の現況〉

- 都市計画道路は、7路線全ての整備が完了しています。都市計画公園はなく、柳一色公園のほか、小規模な公園がいくつか整備されています。
- 下水道は、別府地区でコミュニティ・プラントが整備されていますが、その他の地区は未整備で、公共下水道による整備が計画されています。
- 主な公共施設としては、市役所、総合センター、保健センター、市民センター、図書館等、多数の施設が位置し、本市の中心的な機能を有しています。そのほか、穂積小学校、穂積中学校、朝日大学が位置しています。
- JR穂積駅の南側の市街地は、狭あい道路や木造住宅が密集しており、災害の危険性が高くなっています。また、JR穂積駅周辺及び幹線道路沿道は準防火地域に指定されています。
- 多くの河川が流れ、良好な自然環境・親水環境を有していますが、過去に浸水による大きな被害を受けるなど、水害の危険性が非常に高い地域です。

〈市民アンケート調査結果〉（瑞穂市第2次総合計画より）

- 定住意向は78.7%です。
- 定住したい理由では、「交通の便が良い」という意見が多くなっています。
- 定住したくない理由では、「近所づきあいや人間関係が良くない」、「まちに愛着がない」という意見が多くなっています。
- 今後の重点施策としては、「医療・福祉・介護の充実」、「高齢者対策」、「道路・公園・下水道などの公共インフラ整備」、「防災対策」などを重視する意見が多くなっています。
- 現状の土地利用については、「公園など憩いの場が少ない」、「働く場や地域経済を支える工場・事業所が少ない」などの意見が多くなっています。
- 将来の土地利用については、「穂積駅周辺のにぎわいを創出する」、「道路、公園、上下水道などの整備を進め、良好な住環境を形成する」などの意見が多くなっています。

2. 地域づくりの主要課題

- JR穂積駅周辺における都市拠点にふさわしいまちづくりの推進
（都市機能の集積、土地の高度利用、交通結節点としての機能向上）
- 低未利用地や幹線道路沿道等の計画的な活用による商工業系土地利用の一層の充実
- 朝日大学周辺における学術研究拠点の形成に向け、医療・福祉施設等の誘導・集

- 積に加え、地域生活に身近な商業・サービス施設についても誘導・集積
- ・無秩序な市街地の拡大の抑制と多面的機能（食料生産・防災・景観形成）を考慮した農地の計画的保全
- ・都市施設（道路、公園・緑地、公共下水道等）や市街地整備（土地区画整理事業など）の整備推進、防災機能の充実による安全で良好な住環境の形成
- ・住工混在地における地域特性に応じた用途混在の解消や住環境と操業環境の調和
- ・都市間・拠点間をつなぐ利便性の高い幹線道路ネットワークの強化
- ・生活道路や駅、公共施設、学校等の周辺における歩行空間の整備など、安全な交通環境の形成
- ・河川の自然・親水環境の保全・活用（公園、散策路等）、治水対策の推進
- ・公共交通（鉄道・バス）の充実
- ・巨大地震や集中豪雨による甚大な被害に備えた、減災を考慮した地域づくり（災害に強い市街地整備、都市基盤の防災機能強化等）
- ・地域の自然環境、歴史・文化等と調和し、定住・交流を促す魅力的な都市景観の形成
- ・地域コミュニティの形成（世代間交流）、地域活動の活性化（防災活動、祭り、イベント等）、交流の場の形成

3. 全体構想での代表的な位置付け

- ・都市拠点：JR穂積駅周辺地区
- ・地域生活拠点、学術研究拠点：朝日大学周辺地区
- ・交流拠点（市民交流）：朝日大学グラウンド
- ・交流拠点（歴史・文化交流）：墨俣一夜城（大垣市）
- ・産業集積軸：国道21号、主要地方道北方多度線
- ・主要な防災活動拠点：市役所

3-2 地域づくりの方針

まちの顔としての都市空間が形成され、多様な都市機能が集積した、賑わいと交流が生まれる地域づくり

- ◆都市基盤（公園・緑地、下水道等）の整備推進や、用途混在の解消や操業環境との調和、市街地の防災性の向上により、安全で快適な住環境への改善を推進します。
- ◆JR穂積駅周辺において、まちの顔としてふさわしい都市機能の集積、交通結節機能の強化、都市空間整備を推進し、多様な交流を促進します。
- ◆交通利便性の高さを活かし、国道21号や主要地方道北方多度線などの幹線道路沿道において、都市活力の向上に資する産業（商業、工業、流通・業務等）の集積を図ります。

この地域づくりの方針を実現するための「地域構造」及び「重点施策」を整理しました。

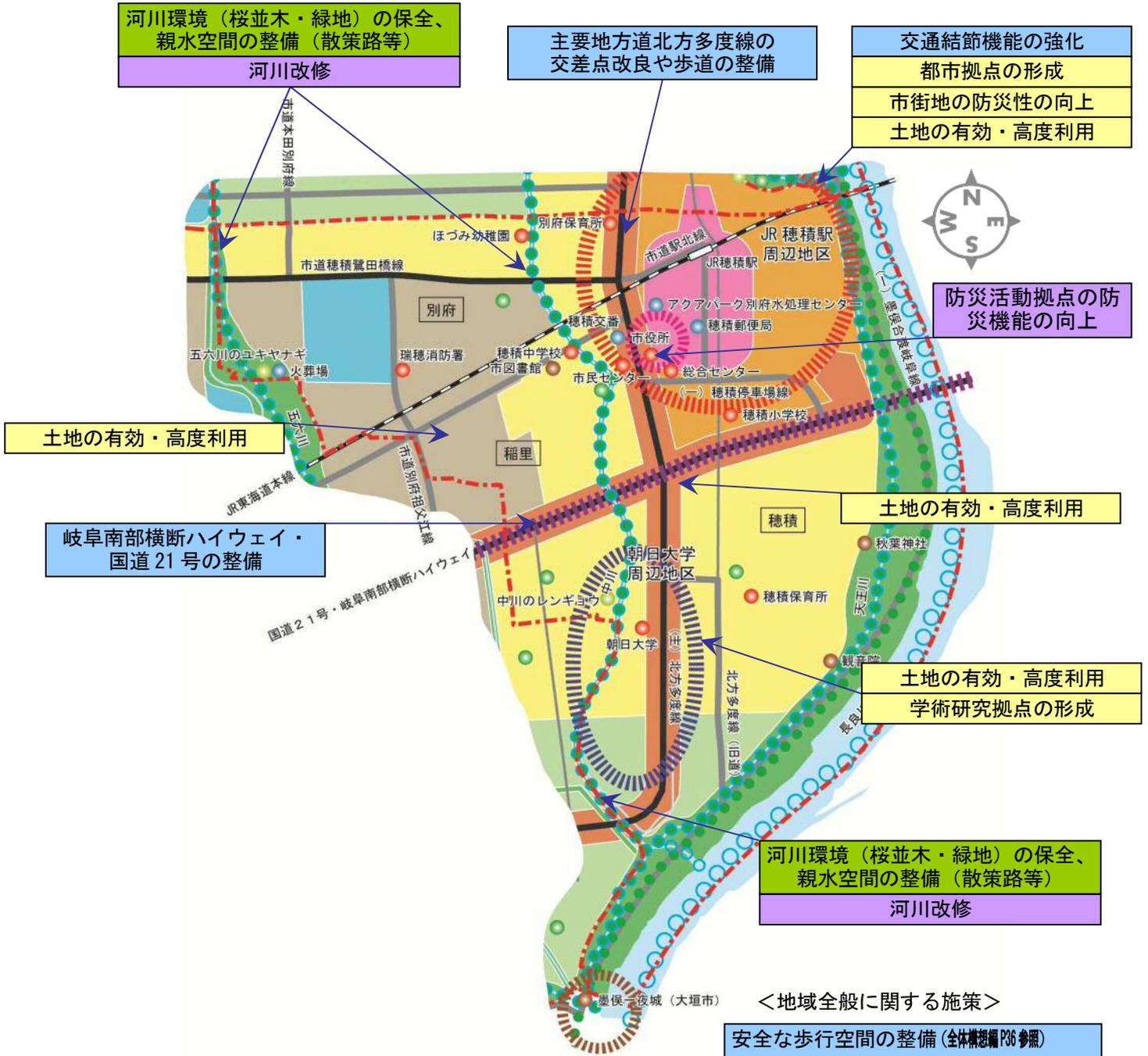
〈地域構造〉

分野		内容	
土地利用	住宅地（街なか居住）	： 地域北東部	
	住宅地（周辺・郊外居住）	： 地域北西部・中部	
	商業地	： JR 穂積駅周辺(地域北東部)	
	工業地	： 地域西部	
	沿道複合地	： 国道 21 号沿い、(主)北方多度線沿い	
	農地・集落地	： 地域南部	
	自然環境地	： 長良川、五六川	
道路・交通	幹線道路	国道 21 号・岐阜南部横断ハイウェイ、(主)北方多度線、(市)穂積鷺田橋線	
	公共交通	鉄道	： JR 東海道本線(JR 穂積駅)
		バス	： 岐阜バス(大野・穂積線) みずほバス(十九条・古橋線、本田・唐栗線、牛牧・穂積線)
拠点	都市拠点レベル	都市拠点	： JR 穂積駅周辺
		地域生活拠点・学術研究拠点	： 朝日大学周辺
		歴史・文化交流拠点	： 墨俣一夜城（大垣市）
	地域の暮らしに密着した拠点	身近な防災拠点	： 市民センター、総合センター等
		身近な健康・交流拠点	： 都市公園等
		身近な歴史・文化拠点	： 図書館、観音院等
身近な自然・交流拠点	： 中川（しげのり）、五六川（しやが）等		

〈重点施策〉

分野	施策名	内容	実施主体
道路・交通づくり	岐阜南部横断ハイウェイ・国道 21 号の整備	・活発な産業活動や交流拡大につながる幹線道路として、早期完全 6 車線化等の整備を促進します。	【国】
	主要地方道北方多度線の交差点改良や歩道の整備	・JR 穂積駅周辺へのアクセス性向上や安全な歩行空間を形成するため、整備を促進します。	【県】
	JR 穂積駅周辺における交通結節機能の強化	・駅周辺の賑わい創出や交流拡大のため、駅前広場、アクセス道路、駐輪場等の整備を推進します。	【事業者、市】
水・緑づくり	五六川、中川、天王川等の河川環境（桜並木・緑地）の保全、親水空間の整備（散策路等）	・水と緑のネットワークの主軸として、自然とのふれあいや環境学習の場として活用できるよう、河川改修とあわせて親水空間を整備するとともに、河川環境の保全を図ります。	【地域住民、市】
市街地づくり	市街地の防災性の向上（JR 穂積駅周辺等）	・地区計画制度等の活用により、狭あい道路の解消、オープンスペースの確保等、市街地の防災性向上を図ります。	【地域住民、市】
	土地の有効・高度利用（JR 穂積駅周辺、朝日大学周辺、幹線道路沿道、住工共存地）	・土地の有効・高度利用による産業集積と良好な住環境の保全との両立を図るため、地区計画制度等の活用による、きめ細やかな土地利用の規制・誘導を図ります。	【地域住民、事業者、市】
	都市拠点の形成（JR 穂積駅周辺）	・地域住民、事業者、行政の連携による具体的計画のもと、まちの顔としてふさわしい都市機能（商業、交流、医療・福祉、中高層住宅等）の集積、都市空間・都市景観の形成、交通結節点機能の向上等を図ります。	【地域住民、事業者、市】
	学術研究拠点の形成（朝日大学周辺）	・産学官の連携のもと、学術研究機能の強化、健康・医療・福祉産業等の集積、生活利便施設の立地誘導等、地区計画制度等の活用により、学術研究拠点の形成を進めます。	【事業者、市】
	市街地環境の維持・保全	・既成市街地の土地利用状況に見合った用途地域等の見直しを行い、適正な土地利用の規制・誘導を図ります。	【市】
都市環境づくり（防災、景観、環境）	五六川、中川、天王川等の河川改修	・大雨による洪水被害を軽減するため、河川改修を促進します。	【県】
	市街地防災性の向上（緊急輸送道路沿道等）	・被災時に防災拠点間を連絡する緊急輸送道路沿道の耐震化や木造住宅密集地の耐震化を促進し、市街地の防災性向上を図ります。	【地域住民、市】
	防災活動拠点の防災機能の向上（市役所等）	・防災活動拠点である公共公益施設などの防災機能の向上を図ります。	【市】

図 地域構造及び重点施策図（穂積地域）



凡例

住宅地（街なか居住）	都市拠点	広域幹線道路
住宅地（周辺・郊外居住）	学術研究拠点	幹線道路
商業地	歴史・文化交流拠点	補助幹線道路
住工共存地	主要な防災活動拠点	その他の主要な生活道路
工業地	水と緑のネットワークの主軸	身近な防災拠点
沿道複合地	歩行者ネットワーク（沿川等）の主軸	身近な健康・交流拠点
農地・集落地		身近な歴史・文化拠点
自然環境地		身近な自然・交流拠点
河川		その他の施設

<地域全般に関する施策>

安全な歩行空間の整備（全体構想編 P36 参照）
公共交通の充実（全体構想編 P37 参照）
身近な公園の整備（全体構想編 P40 参照）
身近な緑地の保全、公共施設や民有地の緑化（全体構想編 P40・41 参照）
公共下水道の整備（全体構想編 P41 参照）
雨水排水施設の整備（全体構想編 P50 参照）
橋梁の耐震化（全体構想編 P50 参照）
建築物の耐震化・不燃化（全体構想編 P50 参照）
景観計画の策定（全体構想編 P51・52 参照）

第4章 牛牧地域のまちづくり構想



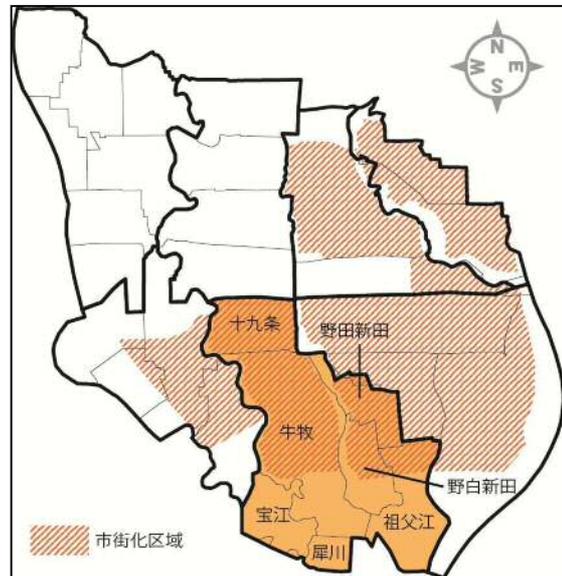
4-1 地域づくりの前提条件

1. 地域の特徴

〈地域の概況〉

- ・市南部に位置し、十九条、牛牧、野田新田、野白新田、祖父江、宝江及び犀川地区が該当します。
- ・犀川、中川、五六川、新堀川、宝江川等、多く河川が集まる位置にあり、南部には犀川遊水地が整備されています。
- ・北部にJR東海道本線が通っていますが、駅は立地していません。西部に樽見鉄道が通っており、十九条駅が立地しています。
- ・主要な道路としては、国道21号、主要地方道北方多度線、一般県道美江寺西結線が通っています。また、岐阜南部横断ハイウェイ構想があるほか、市道西部環状線の整備が進んでいます。
- ・バスは、みずほバス（十九条・古橋線、牛牧・穂積線）が通っています。

図 地域の位置



〈面積及び人口〉

- ・平成22年の人口は、11,642人（市全体の22.4%）で、平成17年～22年の人口増減は、1,057人の増（10.0%増加）と、市内で最も人口増加が顕著な地域です。
- ・平成26年の世帯数は、4,329世帯（市全体の23.1%）で、世帯人員は2.72人/世帯と、市平均（2.83人/世帯）より低くなっています。
- ・面積は約559haで、全域が都市計画区域に指定され、市街化区域が約50%を占めています。

〈土地利用等の現況〉

- ・近年は人口流入が著しく、住宅建設など、宅地化が急速に進んでいます。
- ・国道21号周辺やJR東海道本線の北側では、幹線道路沿道を中心に大小さまざまな規模の商業施設や工場が立地しており、点状的な住宅開発の増加により、住工の土地利用の混在が進んでいます。

- ・南部は、犀川の周辺に優良農地が広がるなど、自然環境が豊かです。
- ・新たな工場の建設が進んでいます。また、犀川周辺地区では土地区画整理事業が実施され、大規模商業施設の立地に伴う住宅建設が進んでいます。

〈都市施設等の現況〉

- ・都市計画道路は、5路線が計画決定されていますが、一部区間を除き概ね整備が完了しています。都市計画公園はありませんが、五六川親水公園、さい川さくら公園など大規模な公園が整備され、新たな公園の整備も進んでいます。
- ・下水道は未整備で、公共下水道による整備が計画されています。
- ・主な公共施設としては、牛牧小学校、牛牧北部防災コミュニティセンター、牛牧南部コミュニティセンター等が位置しています。
- ・面的整備は、犀川堤外地の土地区画整理事業及び牛牧団地が整備されています。
- ・市街化が進行中ですが、一部に狭あい道路や木造住宅が密集した地区があります。また、幹線道路沿道は準防火地域に指定されています。
- ・多くの河川が流れ、良好な自然環境・親水環境を有していますが、過去に浸水による大きな被害を受けるなど、水害の危険性が非常に高い地域です。
- ・牛牧閘門など、歴史を感じさせる史跡を有しています。

〈市民アンケート調査結果〉（瑞穂市第2次総合計画より）

- ・定住意向は82.6%です。
- ・定住したい理由では、「交通の便が良い」という意見が多くなっています。
- ・定住したくない理由でも、「交通の便が良くない」という意見が多くなっていますが、市平均より低くなっています。その他の理由としては、「買い物や外食が不便」や「趣味や娯楽を楽しめる場が充実していない」などが多くなっています。
- ・今後の重点施策としては、「医療・福祉・介護の充実」、「高齢者対策」、「道路・公園・下水道などの公共インフラ整備」、「防災対策」などを重視する意見が多くなっています。
- ・現状の土地利用については、「働く場や地域経済を支える工場・事業所が少ない」、「子育て・医療・福祉など、暮らしに欠かせない生活利便施設が少ない」などの意見が多くなっています。
- ・将来の土地利用については、「穂積駅周辺のにぎわいを創出する」、「道路、公園、上下水道などの整備を進め、良好な住環境を形成する」などの意見が多くなっています。

2. 地域づくりの主要課題

- ・低未利用地や幹線道路沿道等の計画的な活用による商工業系土地利用の一層の充実
- ・犀川周辺地区や十九条駅周辺地区における生活に身近な商業・サービス施設、医療・福祉施設等の誘導・集積
- ・無秩序な市街地の拡大の抑制と多面的機能（食料生産・防災・景観形成）を考慮

した農地の計画的保全

- 都市施設（道路、公園・緑地、公共下水道等）や市街地整備（土地区画整理事業など）の整備推進、防災機能の充実による安全で良好な住宅地の形成
- 住工混在地における地域特性に応じた用途混在の解消や住環境と操業環境の調和
- 都市間・拠点間をつなぐ利便性の高い幹線道路ネットワークの形成（未整備の都市計画道路、市道等の整備）
- 生活道路や公共施設、学校等の周辺における歩行空間の整備等、安全な交通環境の形成
- 河川の自然・親水環境の保全・活用（公園、散策路等）、治水対策の推進
- 公共交通（鉄道・バス）の充実
- 牛牧閘門などの歴史的建造物、田園地帯や犀川遊水地等の自然環境の保全・活用
- 巨大地震や集中豪雨による甚大な被害に備えた、減災を考慮した地域づくり（災害に強い市街地整備、都市基盤の防災機能強化等）
- 地域の自然環境、歴史・文化等と調和し、定住・交流を促す魅力的な都市景観の形成
- 地域コミュニティの形成（世代間交流）、地域活動の活性化（防災活動、祭り等）、交流の場の形成

3. 全体構想での代表的な位置付け

- 地域生活拠点：犀川周辺地区、十九条駅周辺地区
- 交流拠点（健康づくり、市民交流）：五六川親水公園、さい川さくら公園
- 交流拠点（歴史・文化交流）：牛牧閘門
- 産業集積軸：国道21号
- 主要な防災活動拠点：牛牧グラウンド周辺、北部防災コミュニティセンター

4-2 地域づくりの方針

豊かな自然と調和し、安全で快適に暮らし続けられる地域づくり

- ◆犀川周辺地区や十九条駅周辺地区、幹線道路沿道等において、生活に身近な商業・サービス施設、医療・福祉施設等の集積を図るとともに、用途混在の解消や操業環境との調和、市街地の防災性の向上や治水対策の推進により、安全で快適な住環境の形成を図ります。
- ◆交通利便性の高さを活かし、国道21号などの幹線道路沿道において、都市活力の向上に資する産業（商業、工業、流通・業務等）の集積を図ります。
- ◆河川（犀川、五六川等）や犀川遊水地の自然環境、田園風景等と調和した計画的な土地利用を推進します。

この地域づくりの方針を実現するための「地域構造」及び「重点施策」を整理しました。

〈地域構造〉

分野		内容	
土地利用	住宅地（周辺・郊外居住）	地域北西部・中部	
	商業地	犀川地区(地域南部)	
	住工共存地	地域北部・中部	
	工業地	地域北部・南西部	
	沿道複合地	国道 21 号沿い、(主)北方多度線沿い	
	農地・集落地	地域南部	
	自然環境地	長良川、五六川、犀川	
道路・交通	幹線道路	国道 21 号・岐阜南部横断ハイウェイ、(主)北方多度線、(一)美江寺西結線、(一)穂積崇南線、(市)穂積鷺田橋線、(市)西部環状線	
	公共交通	鉄道	樽見鉄道樽見線(十九条駅)
		バス	みずほバス(十九条・古橋線、牛牧・穂積線)
拠点	都市拠点レベル	地域生活拠点	犀川周辺地区、十九条駅周辺
		健康づくり拠点・市民交流拠点	五六川親水公園、さい川さくら公園
		歴史・文化交流拠点	牛牧閘門
	地域の暮らしに密着した拠点	身近な防災流拠点	牛牧北部コミュニティセンター等
		身近な健康・交流拠点	五六川親水公園等
		身近な自然・交流拠点	犀川遊水地等

〈重点施策〉

分野	施策名	内容	実施主体
道路・交通づくり	岐阜南部横断ハイウェイ・国道 21 号の整備	・活発な産業活動や交流拡大につながる幹線道路として、早期完全 6 車線化等の整備を促進します。	【国】
	市道西部環状線の整備	・南西部の地域生活拠点を連絡し、地域間を結ぶ道路として、整備を推進します。	【市】
	一般県道美江寺西結線の整備（JR高架下、忠太橋付近）	・幹線道路や緊急輸送道路としての機能を確保するため、未整備区間の整備を促進します。	【事業者、県】
水・緑づくり	犀川、五六川、中川等の河川環境（桜並木・緑地）の保全、親水空間の整備（散策路等）	・水と緑のネットワークの主軸として、自然とのふれあいや環境学習の場として活用できるよう、河川改修とあわせて親水空間を整備するとともに、河川環境の保全を図ります。	【地域住民、市】
	公共用水域の水質保全（下水道の整備）	・良好な住環境の形成を図るため、都市計画区域内での公共下水道の整備を推進します。	【市】
	犀川遊水地を中心とした自然環境の保全	・優れた生態系を有する自然環境の保全・再生を図ります。	【地域住民、国、県、市】
	農地の保全（南部）	・農地の持つ多面的機能（食料生産・防災・景観等）を考慮し、まとまりのある農地を保全します。	【地域住民、市】
市街地づくり	土地の有効・高度利用の推進（犀川地区、十九条駅周辺、幹線道路沿道、工業地・住工共存地）	・土地の有効・高度利用による産業集積と良好な住環境の保全との両立を図るため、地区計画制度等の活用による、きめ細やかな土地利用の規制・誘導を図ります。	【地域住民、事業者、市】
	市街化区域への編入検討（犀川地区）	・土地の有効・高度利用と良好な市街地環境の形成を図るため、市街化区域への編入を検討します。	【市】
	地域生活拠点の形成（犀川地区、十九条駅周辺）	・生活利便施設の集積、交通結節機能の向上等、地域住民の日常生活の利便性を向上させる拠点の形成を図ります。	【地域住民、事業者、市】
都市環境づくり（防災、景観、環境）	犀川、五六川、中川、新堀川、宝江川等の河川改修	・大雨による洪水被害を軽減するため、犀川遊水地等の河川改修を促進します。	【国、県】
	犀川流域の治水安全度の向上（牛牧排水機場等）	・大雨による洪水被害を防止するため、排水機場の整備を促進し、治水安全度の向上を図ります。	【国、市】

図 地域構造及び重点施策図（牛牧地域）

<地域全般に関する施策>



凡例

住宅地（周辺・郊外居住）	学术研究拠点	広域幹線道路
商業地	地域生活拠点	幹線道路
住工共存地	歴史・文化交流拠点	補助幹線道路
工業地	健康づくり拠点・市民交流拠点	その他の主要な生活道路
沿道複合地	主要な防災活動拠点	身近な防災拠点
農地・集落地	水と緑のネットワークの主軸	身近な健康・交流拠点
自然環境地	歩行者ネットワーク（沿川等）の主軸	身近な歴史・文化拠点
河川		身近な自然・交流拠点
		その他の施設

第5章 南地域のまちづくり構想



5-1 地域づくりの前提条件

1. 地域の特徴

〈地域の概況〉

- ・南西部に位置し、呂久、古橋、中宮、及び横屋地区が該当します。
- ・呂久地区の一部が揖斐川の西側に位置していますが、その他は揖斐川と犀川に挟まれた位置にあり、南西部に宝江川が流れています。
- ・南部にJR東海道本線、南北に樽見鉄道が通っており、樽見鉄道の横屋駅が位置しています。
- ・主要な道路としては、国道21号、一般県道曾井中島美江寺大垣線・穂積栄南線が通っています。

また、岐阜南部横断ハイウェイ構想があるほか、市道西部環状線の整備が進んでいます。

- ・バスは、みずほバス（十九条・古橋線）が通っています。

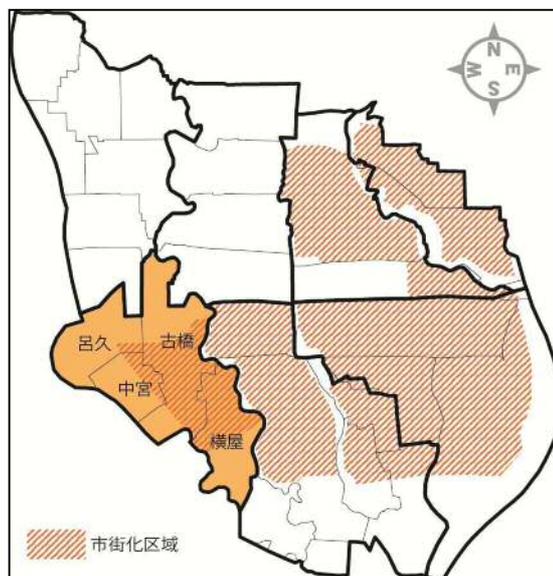
〈面積及び人口〉

- ・平成22年の人口は、5,476人（市全体の10.5%）で、平成17年～22年の人口増減は、367人の増（7.2%増加）と、市内の中でも人口増加が著しい地域です。
- ・平成26年の世帯数は、1,994世帯（市全体の10.6%）で、世帯人員は3.04人/世帯と、市平均（2.83人/世帯）より高くなっています。
- ・面積は約342haで、ほぼ全域が都市計画区域に指定されていますが、市街化区域の占める割合は、約38%と低くなっています。

〈土地利用等の現況〉

- ・樽見鉄道横屋駅の西側では、住宅建設が進み、まとまった住宅地が形成されつつあります。
- ・北部の幹線道路沿道に小規模な商業施設が点在していますが、他地域に比べ、商

図 地域の位置



工業施設の立地は、極端に少なくなっています。

- 揖斐川の西側に位置する呂久地区には、中山道が通り、小簾紅園が位置するなど、歴史を感じさせる景観が残る集落地が形成されています。
- 市街化調整区域には、優良農地が広がり、自然環境が豊かです。

〈都市施設等の現況〉

- 都市計画道路は1路線の整備が完了しています。都市計画公園はなく、小簾紅園があります。
- 下水道は、呂久地区で農業集落排水処理事業により整備されていますが、その他の地区は未整備で、公共下水道による整備が計画されています。
- 主な公共施設としては、南小学校、巢南中学校、南ふれあい広場等が位置しています。
- 横屋駅南側の地域においては、市街化が進んでおらず、低密度な地域となっています。また、一部に狭あい道路や木造住宅が密集した地区があります。
- 多くの河川が流れ、良好な自然環境・親水環境を有していますが、過去に浸水による大きな被害を受けるなど、水害の危険性が非常に高い地域です。

〈市民アンケート調査結果〉（瑞穂市第2次総合計画より）

- 定住意向は74.8%で、市内で最も低くなっています。
- 定住したい理由では、「住み慣れていて愛着がある」、「災害や犯罪が少ない」や「自然が多くまちの環境が良い」という意見が多くなっています。
- 定住したくない理由では、「交通の便が良くない」、「買い物や外食が不便」、「子育てがしやすい環境が充実していない」という意見が多くなっています。
- 今後の重点施策としては、「医療・福祉・介護の充実」、「高齢者対策」、「公共交通（鉄道・バスなど）の充実」、「道路・公園・下水道などの公共インフラ整備」などを重視する意見が多くなっています。
- 現状の土地利用については、「働く場や地域経済を支える工場・事業所が少ない」、「買い物や食事、娯楽を楽しめる場が少ない」などの意見が多くなっています。
- 将来の土地利用については、「道路、公園、上下水道などの整備を進め、良好な住環境を形成する」、「空地や未利用地など有効利用を促進する」、「幹線道路沿いの商業機能等の立地を促す」などの意見が多くなっています。

2. 地域づくりの主要課題

- 低未利用地や幹線道路沿道等の計画的な活用（土地区画整理事業など）による商工業系土地利用の誘導・集積
- 都市施設（道路、公園・緑地、公共下水道等）や市街地整備（土地区画整理事業など）の整備推進、防災機能の充実による住宅主体の良好な市街地環境の形成
- 国道21号周辺における生活に身近な商業・サービス施設、医療・福祉施設等の

誘導・集積

- 無秩序な市街地の拡大の抑制と多面的機能（食料生産・防災・景観形成）を考慮した農地の計画的保全
- 都市間・拠点間をつなぐ利便性の高い幹線道路ネットワークの形成（未整備の市道等の整備）
- 生活道路や駅、公共施設、学校等の周辺における歩行空間の整備等、安全な交通環境の形成
- 河川の自然・親水環境の保全・活用（公園、散策路等）、治水対策の推進
- 公共交通（鉄道・バス）の充実
- 小簾紅園など、中山道の往時をしのばせる集落環境（街並み）の保全・活用
- 巨大地震や集中豪雨による甚大な被害に備えた、減災を考慮した地域づくり（災害に強い市街地整備、都市基盤の防災機能強化等）
- 地域の自然環境、歴史・文化等と調和し、定住・交流を促す魅力的な都市景観の形成
- 地域コミュニティの形成（世代間交流）、地域活動の活性化（防災活動、祭り等）、交流の場の形成

3. 全体構想での代表的な位置付け

- 地域生活拠点：国道 21 号沿道周辺地区
- 交流拠点（健康づくり、市民交流）：南ふれあい広場
- 交流拠点（歴史・文化交流）：小簾紅園
- 産業集積軸：国道 21 号

5-2 地域づくりの方針

快適でゆとりある住環境と活力ある産業集積を備え、 新たな魅力を生み出す地域づくり

- ◆ 低未利用地の計画的な活用により、良好な都市基盤を備えたゆとりある街並みの住宅地の形成を図ります。
- ◆ 都市間・拠点間の連絡を強化する市道西部環状線の整備を推進するとともに、国道 21 号沿道では、周辺環境との調和に配慮しながら、商業機能・住居機能等を形成する土地利用を検討します。
- ◆ 小簾紅園など中山道の往時をしのばせる歴史的資源、河川（揖斐川、犀川）や農地の自然環境の保全・活用を図ります。

この地域づくりの方針を実現するための「地域構造」及び「重点施策」を整理しました。

〈地域構造〉

分野		内容	
土地利用		住宅地（周辺・郊外居住）	地域中部、南部
		沿道複合地	国道 21 号沿い
		農地・集落地	地域北部・西部・南部
		自然環境地	揖斐川
道路・交通	幹線道路	国道 21 号 (一) 曾井中島美江寺大垣線 (一) 穂積兼南線 (市) 西部環状線	
	公共交通	鉄道	樽見鉄道樽見線(横屋駅)
		バス	みずほバス(十九条・古橋線)
拠点	都市拠点レベル	地域生活拠点	国道 21 号沿道周辺地区
		健康づくり拠点・市民交流拠点	南ふれあい広場
		歴史・文化交流拠点	小簾紅園
	地域の暮らしに密着した拠点	身近な防災拠点	南小学校等
		身近な健康・交流拠点	南ふれあい広場等の公園
	身近な歴史・文化拠点	小簾紅園等	

〈重点施策〉

分野	施策名	内容	実施主体
道路・交通づくり	岐阜南部横断ハイウェイ・国道 21 号の整備	・活発な産業活動や交流拡大につながる幹線道路として、早期完全 6 車線化等の整備を促進します。	【国】
	市道西部環状線の整備	・南西部の地域生活拠点を連絡し、地域間を結ぶ道路として、整備を推進します。	【市】
	中山道の歩行空間の整備	・中山道における歩道等の整備、誘導サインの設置等により、観光・交流に寄与する歩行者ネットワークの形成を図ります。	【地域住民、事業者、県、市】
水・緑づくり	犀川等の河川環境（桜並木・緑地）の保全、親水空間の整備（散策路等）	・水と緑のネットワークの主軸として、自然とのふれあいや環境学習の場として活用できるよう、河川改修とあわせて親水空間を整備するとともに、河川環境の保全を図ります。	【地域住民、市】
	農地の保全（市街化調整区域）	・農地の持つ多面的機能（食料生産・防災・景観等）を考慮し、まとまりのある農地を保全します。	【地域住民、市】
市街地づくり	計画的な市街地整備(未利用地地区)	・駅等の交通結節機能と低未利用地の計画的な活用により、都市基盤(道路・公園)が整備された良好な住宅地等の形成を図ります。	【地域住民、事業者、市】
	計画的な新市街地の形成と市街化区域への編入検討(国道 21 号沿道)	・国道 21 号や幹線道路、駅が交わる地理的条件を活かし、土地区画整理事業により土地の有効・高度利用と良好な市街地環境の形成を図るため、市街化区域への編入を検討します。	【地域住民、事業者、市】
	地域生活拠点の形成(国道 21 号沿道周辺)	・交通結節機能の向上等を図り、地域住民の日常生活の利便性を向上させる拠点の形成を図ります。	【地域住民、事業者、市】
都市環境づくり(防災、景観、環境)	犀川、宝江川等の河川改修	・大雨による洪水被害を軽減するため、河川改修を促進します。	【県】
	小簾紅園の保全・活用	・歴史的な街並みや祭り等の伝統文化を保全するとともに、観光・交流空間としての活用方法を検討します。	【地域住民、市】
	市街地の治水安全度の向上	・大雨による洪水被害を防止するため、内水対策を検討し、その整備を推進します。	【市】

図 地域構造及び重点施策図（南地域）



＜地域全般に関する施策＞

- 安全な歩行空間の整備 (全体構想編 P36 参照)
- 公共交通の充実 (全体構想編 P37 参照)
- 身近な公園の整備 (全体構想編 P40 参照)
- 公共下水道の整備 (呂久地区西部除く) (全体構想編 P41 参照)
- 市街地の治水安全度の向上 (全体構想編 P50 参照)
- 橋梁の耐震化 (全体構想編 P50 参照)
- 建築物の耐震化・不燃化 (全体構想編 P50 参照)
- 景観計画の策定 (全体構想編 P51・52 参照)

凡例

住宅地 (周辺・郊外居住)	地域生活拠点	広域幹線道路
住工共存地	歴史・文化交流拠点	幹線道路
沿道複合地	健康づくり拠点・市民交流拠点	補助幹線道路
農地・集落地	水と緑のネットワークの主軸	その他の主要な生活道路
自然環境地	歩行者ネットワーク (歴史街道) の主軸	身近な防災拠点
河川	歩行者ネットワーク (沿川等) の主軸	身近な健康・交流拠点
		身近な歴史・文化拠点
		その他の施設

第6章 中地域のまちづくり構想



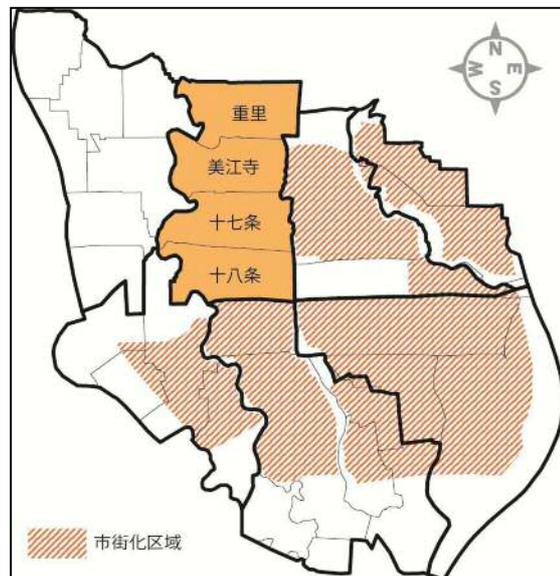
6-1 地域づくりの前提条件

1. 地域の特徴

〈地域の概況〉

- ・市北部に位置し、重里、美江寺、十七条及び十八条地区が該当します。
- ・犀川と五六川に挟まれた位置にあります。
- ・鉄道は樽見鉄道が通っており、美江寺駅が位置しています。
- ・主要な道路としては、主要地方道岐阜県南大野線（バイパス含む）、一般県道曾井中島美江寺大垣線・美江寺西結線が通っています。また、主要地方道岐阜県南大野線バイパスは、東海環状自動車道（仮称）大野・神戸 IC へアクセスする路線として、計画・整備が進められています。
- ・バスは、岐阜バス（美江寺・穂積線）、みずほバス（本田・唐栗線）が通っています。

図 地域の位置



〈面積及び人口〉

- ・平成 22 年の人口は、3,382 人（市全体の 6.5%）で、市内で最も人口が少なく、平成 17 年～22 年の人口増減は、26 人の減（-0.8%減少）と、概ね横ばいです。
- ・平成 26 年の世帯数は、1,042 世帯（市全体の 5.6%）で、市内で最も世帯数の少ない地域ですが、世帯人員は 3.17 人/世帯と、市内で最も多くなっています。
- ・面積は約 374ha で、ほぼ全域が準都市計画区域です。

〈土地利用等の現況〉

- ・犀川と樽見鉄道の間は、まとまった集落地となっており、周囲には、柿畑などの果樹園や花きの農地が広がっています。また、樽見鉄道の東側は、田園地帯が広

がっています。田園地帯の一部では、住宅建設がみられますが、土地利用の変化は少なく、自然環境が豊かです。

- ・田園地帯の南部には、工業導入地域として大規模な工場や運輸倉庫施設が集積していますが、商業施設は少なく、集落地の中に点在する程度です。
- ・美江寺地区には、古くは美江寺宿が置かれ、歴史を感じさせる景観が残っています。

〈都市施設等の現況〉

- ・公園としては犀川河川公園が整備されています。
- ・下水道は未整備で、特定環境保全公共下水道による整備が計画されています。
- ・主な公共施設としては、中小学校、中ふれあい広場等が位置しています。
- ・一部に狭あい道路や木造住宅が密集した地区があります。
- ・多くの河川が流れ、良好な自然環境・親水環境を有しています。

〈市民アンケート調査結果〉（瑞穂市第2次総合計画より）

- ・定住意向は86.1%で、市内で最も高くなっています。
- ・定住したい理由では、「住み慣れていて愛着がある」、「自然が多くまちの環境が良い」や「災害や犯罪が少ない」という意見が多くなっています。
- ・定住したくない理由では、「買い物や外食が不便」や「趣味や娯楽を楽しめる場が充実していない」という意見が多くなっています。
- ・今後の重点施策としては、「医療・福祉・介護の充実」、「道路・公園・下水道などの公共インフラ整備」、「公共交通（鉄道・バスなど）の充実」、「農業の振興」などを重視する意見が多くなっています。
- ・現状の土地利用については、「働く場や地域経済を支える工場・事業所が少ない」、「買い物や食事、娯楽を楽しめる場が少ない」などの意見が多くなっています。
- ・将来の土地利用については、「道路、公園、上下水道などの整備を進め、良好な住環境を形成する」、「空地や未利用地など有効利用を促進する」、「幹線道路沿いの商業機能等の立地を促す」、「大規模な区画での開発を進める」などの意見が多くなっています。

2. 地域づくりの主要課題

- ・地域施設（道路、公園・緑地、特定環境保全公共下水道等）の整備推進、防災機能の充実による良好な住環境の形成
- ・幹線道路沿道などにおける生活に身近な商業・サービス施設、医療・福祉施設等の誘導・集積
- ・柿畑などの果樹園や花き生産農地、水田等の計画的な保全・整備による農業の振興
- ・都市間・拠点間、東海環状自動車道（仮称）大野・神戸ICをつなぐ利便性の高

- い幹線道路ネットワークの形成（未整備の県道、市道等の整備）
- 生活道路や駅、公共施設、学校等の周辺における歩行空間の整備等、安全な交通環境の形成
- 河川の自然・親水環境の保全・活用（公園、散策路等）、治水対策の推進
- 公共交通（鉄道・バス）の充実
- 美江寺宿など、中山道の往時をしのばせる集落環境（街並み）、河川等の自然環境の保全・活用
- 巨大地震や集中豪雨による甚大な被害に備えた、減災を考慮した地域づくり（災害に強い市街地整備、都市基盤の防災機能強化等）
- 地域の自然環境、歴史・文化等と調和し、定住・交流を促す魅力的な都市景観の形成
- 地域コミュニティの形成（世代間交流）、地域活動の活性化（防災活動、祭り等）、交流の場の形成

3. 全体構想での代表的な位置付け

- 地域生活拠点：巢南庁舎周辺地区
- 交流拠点（健康づくり、市民交流）：中ふれあい広場
- 交流拠点（歴史・文化交流）：美江寺宿
- 産業集積軸：主要地方道岐阜巣南大野線バイパス

6-2 地域づくりの方針

香り高い歴史・文化の活用と農・住・工の機能調和による、 個性豊かな地域づくり

- ◆生活基盤（道路、下水道等）の整備により住環境の改善を図るとともに、幹線道路沿道などにおいて、生活に身近な商業・サービス施設、医療・福祉施設等の集積を促し、生活利便性の向上を図ります。
- ◆美江寺宿などの歴史的景観や地域資源の保全・活用により、観光・交流機能を強化し、地域の活性化を図ります。
- ◆農地の保全による農業の振興と一団の工場の操業環境を維持するため、必要な都市計画制度の検討を行います。

この地域づくりの方針を実現するための「地域構造」及び「重点施策」を整理しました。

〈地域構造〉

分野		内容						
土地利用		工業地	地域中東部、南東部					
		沿道複合地	(主) 岐阜県南大野線バイパス沿い					
		農地・集落地	上記以外					
道路・交通	幹線道路	(主) 岐阜県南大野線バイパス (一) 曾井中島美江寺大垣線 (一) 美江寺西結線						
		公共交通	<table border="1"> <tr> <td>鉄道</td> <td>樽見鉄道樽見線(美江寺駅)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">バス</td> <td>岐阜バス(美江寺・穂積線)</td> </tr> <tr> <td>みずほバス(本田・唐栗線)</td> </tr> </table>	鉄道	樽見鉄道樽見線(美江寺駅)	バス	岐阜バス(美江寺・穂積線)	みずほバス(本田・唐栗線)
	鉄道	樽見鉄道樽見線(美江寺駅)						
バス	岐阜バス(美江寺・穂積線)							
	みずほバス(本田・唐栗線)							
拠点	都市拠点レベル	<table border="1"> <tr> <td>地域生活拠点</td> <td>県南庁舎周辺地区</td> </tr> <tr> <td>健康づくり拠点・市民交流拠点</td> <td>中ふれあい広場</td> </tr> <tr> <td>歴史・文化交流拠点</td> <td>美江寺宿</td> </tr> </table>	地域生活拠点	県南庁舎周辺地区	健康づくり拠点・市民交流拠点	中ふれあい広場	歴史・文化交流拠点	美江寺宿
地域生活拠点	県南庁舎周辺地区							
健康づくり拠点・市民交流拠点	中ふれあい広場							
歴史・文化交流拠点	美江寺宿							
	地域の暮らしに密着した拠点	<table border="1"> <tr> <td>身近な防災拠点</td> <td>中小学校等</td> </tr> <tr> <td>身近な健康・交流拠点</td> <td>中ふれあい広場等の公園</td> </tr> <tr> <td>身近な歴史・文化拠点</td> <td>美江寺宿等</td> </tr> </table>	身近な防災拠点	中小学校等	身近な健康・交流拠点	中ふれあい広場等の公園	身近な歴史・文化拠点	美江寺宿等
身近な防災拠点	中小学校等							
身近な健康・交流拠点	中ふれあい広場等の公園							
身近な歴史・文化拠点	美江寺宿等							

〈重点施策〉

分野	施策名	内容	実施主体
道路・交通づくり	主要地方道岐阜県南大野線バイパスの整備	・東海環状自動車道（仮称）大野・神戸 IC へのアクセスを確保し、活発な産業活動や交流拡大につながる幹線道路として、整備を促進します。	【県】
	中山道の歩行空間の整備	・中山道における歩道等の整備、誘導サインの設置等により、観光・交流に寄与する歩行者ネットワークの形成を図ります。	【地域住民、事業者、県、市】
	交通結節機能の強化	・地域生活拠点周辺の賑わい創出や交流拡大のため、バス停留所やアクセス道路、駐輪場等の整備を推進します。	【地域住民、事業者、市】
水・緑づくり	犀川、五六川等の河川環境（桜並木・緑地）の保全、親水空間の整備（散策路等）	・水と緑のネットワークの主軸として、自然とのふれあいや環境学習の場として活用できるよう、河川改修とあわせて親水空間を整備するとともに、河川環境の保全を図ります。	【地域住民、市】
市街地づくり	地域生活拠点の形成(県南庁舎周辺)	・生活利便施設の集積、交通結節機能の向上等、地域住民の日常生活の利便性を向上させる拠点の形成を図ります。	【地域住民、事業者、市】
	土地利用のルール検討（特定用途制限地域等）	・無秩序な宅地開発を抑制するとともに、良好な住環境・営農環境と調和した適正かつ合理的な土地利用を誘導します。	【地域住民、事業者、市】
都市環境づくり（防災、景観、環境）	犀川、五六川等の河川改修	・大雨による洪水被害を軽減するため、河川改修を促進します。	【県】
	美江寺宿の保全・活用	・歴史的な街並みや祭り等の伝統文化を保全するとともに、観光・交流空間としての活用方法を検討します。	【地域住民、県、市】

図 地域構造及び重点施策図（中地域）



＜地域全般に関する施策＞

安全な歩行空間の整備 (全体構想編 P36 参照)
公共交通の充実 (全体構想編 P37 参照)
身近な公園の整備 (全体構想編 P40 参照)
果樹園・花き生産農地、水田など優良農地の保全・活用 (全体構想編 P41 参照)
特定環境保全公共下水道の整備 (全体構想編 P41 参照)
集落地の住環境の改善 (全体構想編 P45 参照)
橋梁の耐震化 (全体構想編 P50 参照)
建築物の耐震化・不燃化 (全体構想編 P50 参照)
景観計画の策定 (全体構想編 P51・52 参照)

凡例

住宅地（周辺・郊外居住）	地域生活拠点	幹線道路
工業地	歴史・文化交流拠点	補助幹線道路
沿道複合地	健康づくり拠点・市民交流拠点	その他の主要な生活道路
農地・集落地	主要な防災活動拠点	身近な防災拠点
河川	水と緑のネットワークの軸	身近な健康・交流拠点
	歩行者ネットワーク（歴史街道）の軸	身近な歴史・文化拠点
	歩行者ネットワーク（沿川等）の軸	身近な自然・交流拠点
		その他の施設

第7章 西地域のまちづくり構想



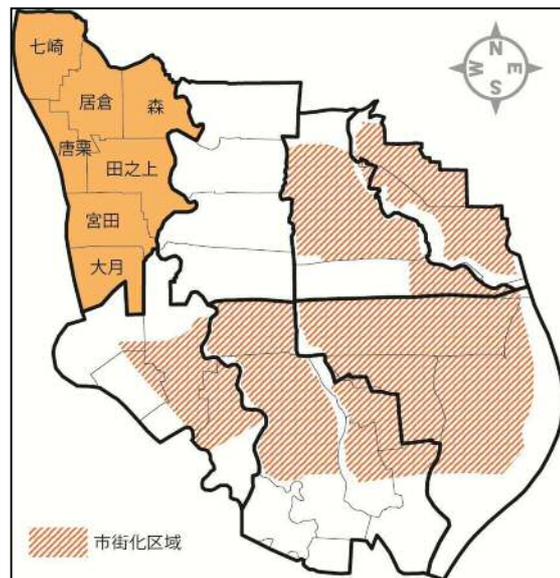
7-1 地域づくりの前提条件

1. 地域の特徴

〈地域の概況〉

- ・市北西部に位置し、七崎、居倉、森、唐栗、田之上、宮田及び大月地区が該当します。
- ・根尾川・揖斐川と犀川に挟まれた位置にあり、中部に長護寺川が流れています。
- ・鉄道はなく、主要な道路としては、主要地方道岐阜県南大野線、一般県道曾井中島美江寺大垣線・田之上屋井線が通っています。また、地域の北端では東海環状自動車道が計画されており、(仮称)大野・神戸 IC にアクセスする主要地方道岐阜県南大野線バイパスの整備が進んでいます。
- ・バスは、岐阜バス(美江寺・穂積線)、みずほバス(本田・唐栗線、十九条・古橋線)が通っています。

図 地域の位置



〈面積及び人口〉

- ・平成 22 年の人口は、4,411 人(市全体の 8.5%)で、平成 17 年~22 年の人口増減は、203 人の増(4.8%増加)と、増加傾向です。
- ・平成 26 年の世帯数は、1,379 世帯(市全体の 7.4%)で、世帯人員は 3.16 人/世帯と、市平均(2.83 人/世帯)より多くなっています。
- ・面積は約 463ha で、ほぼ全域が準都市計画区域です。

〈土地利用等の現況〉

- ・富有柿の発祥の地で、柿畑などの果樹園や花きの農地、田園地帯が広がっており、その中に集落地が点在しています。
- ・主要地方道岐阜県南大野線と一般県道曾井中島美江寺大垣線の交差点周辺に、商業施設が集積しています。また、工業導入地域として田園地帯の中に工場が点在

していますが、他地域に比べ、商工業施設は少ない状況です。

〈都市施設等の現況〉

- 都市計画道路は、東海環状自動車道の1路線が計画されており、公園としては根尾川河川公園、長護寺川水辺公園などが整備されています。
- 下水道は、特定環境保全公共下水道が整備されています。
- 主な公共施設としては、巢南庁舎、巢南公民館、老人福祉センター、西部複合センター等、多数の施設が位置し、西部の拠点としての機能を有しています。そのほか、西小学校、西ふれあい広場が位置しています。
- 一部に狭あい道路や木造住宅が密集した地区があります。
- 多くの河川が流れ、良好な自然環境・親水環境を有しています。
- 伊久良河宮跡など、歴史を感じさせる史跡を有しています。

〈市民アンケート調査結果〉（瑞穂市第2次総合計画より）

- 定住意向は74.6%で、市内で最も低くなっています。
- 定住したい理由では、「住み慣れていて愛着がある」、「自然が多くまちの環境が良い」や「災害や犯罪が少ない」という意見が多くなっています。
- 定住したくない理由では、「交通の便が良くない」という意見が多くなっています。
- 今後の重点施策としては、「医療・福祉・介護の充実」、「高齢者対策」、「公共交通（鉄道・バスなど）の充実」、「農業の振興」などを重視する意見が多くなっています。
- 現状の土地利用については、「働く場や地域経済を支える工場・事業所が少ない」、「子育て・医療・福祉など、暮らしに欠かせない生活利便施設が少ない」、「買い物や食事、娯楽を楽しめる場が少ない」、「空地や未利用地が多い」などの意見が多くなっています。
- 将来の土地利用については、「空地や未利用地など有効利用を促進する」、「優良な農地の積極的な整備や耕作放棄地の解消を図る」などの意見が多くなっています。

2. 地域づくりの主要課題

- 地域施設（生活道路、公園・緑地）の整備推進、防災機能の充実による良好な住環境の形成
- 巢南庁舎周辺や幹線道路沿道等における生活に身近な商業・サービス施設、医療・福祉施設等の誘導・集積、交通結節点としての機能向上
- 東海環状自動車道（仮称）大野・神戸 IC に近接する立地条件を活用した計画的な低未利用地の活用、自然環境に配慮した西部の拠点にふさわしい商工業系土地利用の誘導・集積

- ・柿畑などの果樹園や花き生産農地、水田等の計画的保全・整備による農業の振興
- ・都市間・拠点間、東海環状自動車道（仮称）大野・神戸 IC をつなぐ利便性の高い幹線道路ネットワークの形成（未整備の県道、市道等の整備）
- ・生活道路や公共施設、学校等の周辺における歩行空間の整備等、安全な交通環境の形成
- ・河川の自然・親水環境の保全・活用（公園、散策路等）、治水対策の推進
- ・公共交通（バス）の充実
- ・伊久良河宮跡や富有柿発祥の地としての歴史的資源の保全・活用
- ・巨大地震や集中豪雨による甚大な被害に備えた、減災を考慮した地域づくり（災害に強い市街地整備、都市基盤の防災機能強化等）
- ・地域の自然環境、歴史・文化等と調和し、定住・交流を促す魅力的な都市景観の形成
- ・地域コミュニティの形成（世代間交流）、地域活動の活性化（防災活動、祭り等）、交流の場の形成

3. 全体構想での代表的な位置付け

- ・地域生活拠点：巢南庁舎周辺地区
- ・交流拠点（健康づくり、市民交流）：西ふれあい広場
- ・産業集積軸：主要地方道岐阜巣南大野線バイパス
- ・主要な防災活動拠点：巢南庁舎

7-2 地域づくりの方針

交通条件の高まりを活かした都市機能強化と、 特色ある農村環境・自然環境の共生による、活力ある地域づくり

- ◆巢南庁舎周辺において、公共公益施設や生活に身近な商業・サービス施設、医療・福祉施設等の集積を図り、西部の拠点としてふさわしい地域生活拠点の形成を図ります。
- ◆将来、東海環状自動車道（仮称）大野・神戸 IC に近接するという地域性とアクセス道路である主要地方道岐阜巣南大野線バイパスの整備に伴う交通条件を活かし、産業の集積を図ります。
- ◆河川（揖斐川、根尾川、犀川等）の自然環境、柿畑などの果樹園や花き農地、水田等の農村風景、伊久良河宮跡などの歴史資源等を保全・活用し、地域の魅力向上を図ります。

この地域づくりの方針を実現するための「地域構造」及び「重点施策」を整理しました。

〈地域構造〉

分野		内容	
土地利用		工業地	地域中部、南部
		沿道複合地	(主) 岐阜県南大野線バイパス沿い
		農地・集落地	上記以外
		自然環境地	揖斐川
道路・交通	幹線道路	(主) 岐阜県南大野線バイパス (一) 曾井中島美江寺大垣線	
	公共交通	バス	岐阜バス(美江寺・穂積線) みずほバス(本田・唐栗線)
拠点	都市拠点レベル	地域生活拠点	県南庁舎周辺地区
		健康づくり拠点・市民交流拠点	西ふれあい広場
	地域の暮らしに密着した拠点	身近な防災拠点	西部複合センター等
		身近な健康・交流拠点	西ふれあい広場等の公園
		身近な歴史・文化拠点	伊久良河宮跡等
身近な自然・交流拠点	犀川等		

〈重点施策〉

分野	施策名	内容	実施主体
道路・交通づくり	東海環状自動車道の整備	・活発な産業活動や交流拡大につながる広域的な幹線道路として、整備を促進します。	【国】
	主要地方道岐阜県南大野線バイパスの整備	・東海環状自動車道(仮称)大野・神戸ICへのアクセスを確保し、活発な産業活動や交流拡大につながる幹線道路として、整備を促進します。	【県】
	中山道の歩行空間の整備	・中山道における歩道等の整備、誘導サインの設置等により、観光・交流に寄与する歩行者ネットワークの形成を図ります。	【地域住民、事業者、県、市】
	県南庁舎周辺における交通結節機能の強化	・地域生活拠点周辺の賑わい創出や交流拡大のため、バス停留所、アクセス道路、駐輪場等の整備を推進します。	【事業者、市】
水・緑づくり	犀川、長護寺川等の河川環境(桜並木・緑地)の保全、親水空間の整備(散策路等)	・水と緑のネットワークの主軸として、自然とのふれあいや環境学習の場として活用できるよう、河川改修とあわせて親水空間を整備するとともに、河川環境の保全を図ります。	【地域住民、市】
市街地づくり	地域生活拠点の形成(県南庁舎周辺)	・生活利便施設の集積、交通結節機能の向上等、地域住民の日常生活の利便性を向上させる拠点の形成を図ります。 ・市民の憩い、ふれあい、健康づくり等を支える拠点的な市民交流拠点を整備します。	【地域住民、事業者、市】
	土地利用のルール検討(特定用途制限地域等)	・無秩序な宅地開発を抑制するとともに、良好な住環境・営農環境と調和した適正かつ合理的な土地利用を誘導します。	【地域住民、事業者、市】
都市環境づくり(防災、景観、環境)	犀川、長護寺川等の河川改修	・大雨による洪水被害を軽減するため、河川改修を促進します。	【県】
	伊久良河宮跡・富有柿の母木等の保全・活用	・歴史的資源として保全し、観光・交流空間としての活用方法を検討します。	【地域住民、事業者、市】
	防災活動拠点の防災機能の向上(県南庁舎等)	・防災活動拠点である公共公益施設などの防災機能の向上を図ります。	【市】

図 地域構造及び重点施策図（西地域）



＜地域全般に関する施策＞

安全な歩行空間の整備（全体構想編 P36 参照）
公共交通の充実（全体構想編 P37 参照）
身近な公園の整備（全体構想編 P40 参照）
果樹園・花き生産農地、水田など優良農地の保全・活用（全体構想編 P41 参照）
集落地の住環境の改善（全体構想編 P45 参照）
橋梁の耐震化（全体構想編 P50 参照）
建築物の耐震化・不燃化（全体構想編 P50 参照）
景観計画の策定（全体構想編 P51・52）

凡例

工業地	地域生活拠点	広域幹線道路
沿道複合地	健康づくり拠点・市民交流拠点	幹線道路
農地・集落地	主要な防災活動拠点	補助幹線道路
自然環境地	水と緑のネットワークの主軸	その他の主要な生活道路
河川	歩行者ネットワーク（歴史街道）の主軸	身近な防災拠点
	歩行者ネットワーク（沿川等）の主軸	身近な健康・交流拠点
		身近な歴史・文化拠点
		身近な自然・交流拠点
		その他の施設

